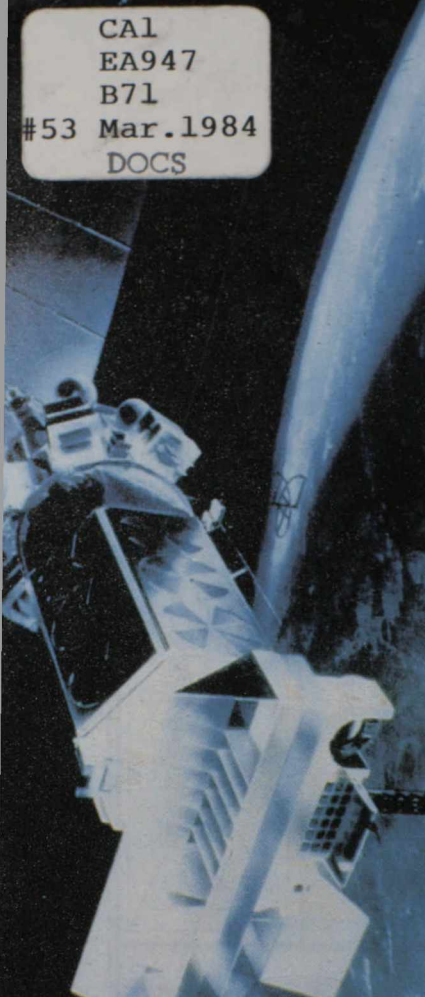
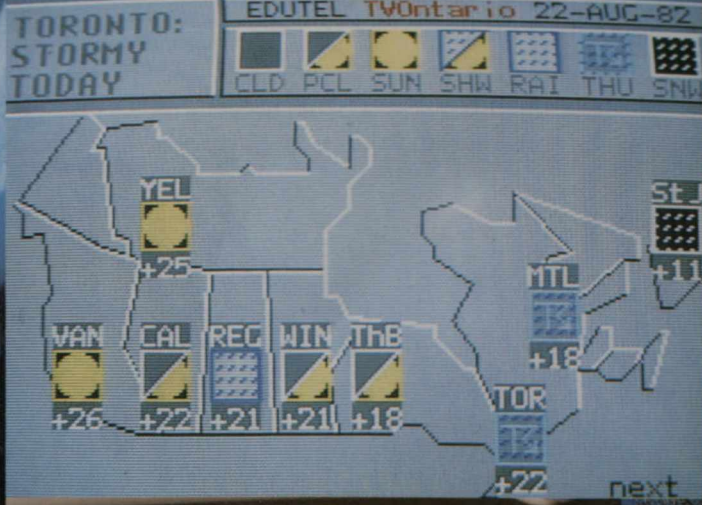


CAL
EA947
B71
#53 Mar. 1984
DOCS



1984年3月
No. 53
ISSN 0389-1852

EXTERNAL AFFAIRS
AFFAIRES EXTERIEURES
OTTAWA
MAR 19 1984
LIBRARY / BIBLIOTHÈQUE

特集・ニューメディア

トピックス—— 2

カナダで見たビデオテックス・大塚 隆—— 4

ニューメディア情報—— 6

テリドン 新しい文字図形表現の標準・鈴木優一—— 8

日本にも進出したカナダのニューメディア—— 9

CANADA IN NEWS—— 10

カナダからサーカスがやってきた
ブシェ選手がサラエボでスピード王に

“患者優先”を貫くカナダの医療・蓮池 修—— 12

歴史点描・海から海へ—— 初代首相の大構想—— 14

カナダ人物記⑭ ウェイン・グレッツキ—— 16

編集後記—— 16

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E
3 5036 01030035 1

60984 81800

ムビツクス

◆チエルネンコ・ソ連書記長と会談 ◆トルドー首相、東西対話で自信

故アンドロポフ・ソ連共産党書記長の葬儀に参列したトルドー首相は、二月二十五日、チエルネンコ新書記長と同首相の平和提案などについて会談した。会談の内容は明らかにされていないが、トルドー首相は会談後の記者会見で「平和提案の主目的は政治的エネルギーを注入し、メガホン（東西間の言い争い）の音量を下げることにあつたが、これが実現しつつある。この意味で、平和提案は実を結びつつある」と述べている。

トルドー首相は、一月末から二月初めにかけて、チエコスロバキア、ドイツ民主主義共和国（東ドイツ）およびルーマニアの東欧三国を訪れ、東西間の対話再開や核軍縮など、緊張緩和への協力を呼びかけたが、チエルネンコ書記長との会談により、主要各国首脳との話し合いは一応区切りがついた。

◆訪加の趙首相が評価 ◆トルドー首相の平和努力

一月中旬カナダを訪問した中国の趙紫陽首相は、共産圏首脳として初めてカナダ連邦議会で演説、

その中で「世界平和を確保し、国際緊張を緩和し、核軍縮を促進するためのトルドー首相の努力」を評価し、これらの問題についてはカナダ政府と引き続き協議したい、と述べた。

これに対し、トルドー首相は、中国はすべての核兵器の削減を実現する上で大きな力となる国であり、「中国がこれについて指導的役割を果たし、またその行動を通



カナダ国内で案内する趙首相。トルドー首相の案内に入る趙首相。

じて超大国に兵器削減への圧力をかけるよう期待している」と語った。

なお報道によると、趙首相は水力発電開発などに関してカナダの協力を求めたほか、カナダの紙パルプ、カリ、木材および硫黄の分野に投資したい意向を示したといわれる。

◆中国から衛星地上局受注

スペースシャトル搭載の遠隔操作装置の製造で知られるスパイ・

エアロスペース社（本社トロント）は、一月、中国から二十六基の通信衛星地上局（総額二千万カナドル、約三十八億円）を受注した。カナダの先端技術としては過去最大級の対中輸出となる。

中国は、これらの地上局を、国内遠隔地用通信衛星の地上局として利用する考えたとわれている。

◆トルドー首相が辞任表明 ◆六月中旬に後継者を選出

一九六八年以来、九か月間を除き十五年以上にわたり政権の座にあつたトルドー首相（六四歳）が、二月末、辞任を表明した。

辞任の理由として、同首相はイオナ・カンパニオラ自由党総裁に宛てた書簡の中で、「わが党の党首を経験したことは私の人生の喜びのひとつであつたが、そろそろ他の人がこの職務につくべきだと思ふ」と述べている。（トルドー首相は自由党の議院内党首で、党務を担当する党総裁を兼任しない）

この辞任表明により、自由党は六月十四日から十七日までオタワで党首選出のための党大会を開き、後継党首を決める。カナダでは与党党首が自動的に首相に就任するため、トルドー首相は後継党首が選出され、総督によつて首相に任命されるとともに、正式に辞任することになる。

新首相は、現在の下院議員の任期（五年）が切れる来年四月までに総選挙を実施する。

◆カナダ文学大全が完成 ◆七百五十項目を網羅

カナダにおける文学および文学活動を網羅した Oxford Companion が、このほどオンタリオ州のオックスフォード大学出版局から出版された。

これは、一九六七年に出され、今は絶版になつたノラ・ストリー編 Oxford Companion to Canadian History and Literature にもられた文学に関する部分を、さらに充実させたもの。四年がかりで百九十二人の執筆者がまとめた同書は、作家の経歴はもちろん、出版者や雑誌の紹介、英国系カナダ文学やフランス系カナダ文学についての解説、児童文学、ユートピア小説、インディアンの伝説などについての記述と、七百五十項目におよぶ説明がついている八百四十三ページの大著である。

◆中高年者の国際スポーツ大会 ◆来年（トロント）から四年毎に



中高年齢層の人々にも、スポーツ競技の機会を提供しようと、来年八月、三十五歳以上（種目によつては二十五歳以上）のスポーツ愛好者を対象にした国際競技大会「マスターズ・ゲーム」が、トロントで開催される。

この競技大会は、オリンピックと同じく、四年ごとに世界各地で

開催されるという。

第一回のトロント大会では、次の各種目の競技が行なわれる予定。陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、カヌー、クリケット、自転車競走、飛び込み、馬術、フエンシング、アイスホッケー、オリエンテーリング、ラケットボール、帆走、漕艇、射撃、スカッシュ、水泳、水中バレー、卓球、テニス、水上スキー。

このうち、バスケットボールとアイスホッケーは男のみ。また水泳、水中バレーおよび飛び込みいずれも二十五歳以上、などを除いて、ほとんどの種目の参加最低年齢は三十五歳または四十歳となっている。競技は五歳ささみの年齢別で行なわれる。

選手はそれぞれ個人の資格で出場する。これまでの競技歴など、出場資格は特に問わないという。マスターズ・ゲームへの参加手続きなどについての問い合わせ先は、The Masters Games, P.O.Box 1985, Postal Station P, Toronto, Canada M5S 2Y7

選手はそれぞれ個人の資格で出場する。これまでの競技歴など、出場資格は特に問わないという。

マスターズ・ゲームへの参加手続きなどについての問い合わせ先は、The Masters Games, P.O.Box 1985, Postal Station P, Toronto, Canada M5S 2Y7

◆大当り！二六億円の宝くじ ◆「心臓が止まるかと思つたわ」

当選者が一週間も現れず、カナダ全国をやきもきさせていた宝くじ騒ぎは、オンタリオ州ブランドフォードに住む中年夫婦が一等賞千三百九十万ドル（約二十六億六千万円）の当り主とわかつて、無事一件落着した。

この幸運な夫婦は、スチュワート・ケリーさん（五十七歳）と奥さんのリリアンさん（五十四歳）。スチュワートさんは週給四百ドルのトラック運転手、リリアンさんは週給百五十ドルの洗濯婦で、子供はいない。

くじが当たったことが分かったとき、リリアンさんは思わず泣きだした。「それから胃は痛くなるし、心臓も痛くなるし……今にも心臓が止まるかと思いました」彼女はおとてこう述べている。



スチュワート夫妻の喜びを報ずるカナダの新聞。

ケリー夫妻は、賞金の半分を糖尿病や心臓病の研究用に寄付するほか、兄弟姉妹など近親者に均等に配分し、残りは家を新築したり、今後の生活費にあてるつもりだ。

◆雇用対策を最重点に 八四年度の連邦予算案

ランドン大蔵大臣は二月十五日連邦下院に一九八四年の連邦政府予算案を提出した。

予算案は、カナダ産業の生産力と競争力を高めると共に、働く意志のあるすべての国民に永続的か

つ有意義な仕事を提供するような強力な経済を築き上げ、また老後の生活保障を図ることを最大目標に、要旨次の政策を掲げている。

一、インフレ抑制策 現行の賃上げ抑制策は予定通り今年六月をめぐりに打ち切り、税率や政府交付金に対するインデクセーション（物価スライド）の限度枠も来年一月に撤廃する。しかし、政府は賃金物価抑制策を延長し、政府管理物価の上昇を前年比最高五パーセントから四パーセントに引き下げる。ただし強制的賃上げ抑制は延長しない。公務員の団体交渉は再開するが、抑制分の取り戻しは認めない。

一、雇用創出策 特別景気対策プロジェクトを中心に、財政投資を前年より二五パーセント増加する。それ以外に、直接雇用策および職業訓練費として、政府はすでに二十三億ドルを組んでいる。雇用対策は学生など若者の雇用創設および訓練に重点をおく。

一、競争力と生産性 労使協調を高めるため、利益分配制を採用する企業に優遇措置をとる。

政府開発援助（ODA）の増額分の一部を、新設される援助・貿易基金に組み入れ、開発途上国においてカナダ企業が競争力をもつプロジェクトの融資に回す。中小企業の所得税体系を大幅に単純化する。

外国車優先の自動車税を改善する。その結果、米国車の輸入車に対する税金は引き上げられる（米

国車については減税する）。

一、老後の生活保障 個人年金の最低給付額を引き上げ、公的年金を強化する。

なお、予算案は、国民総消費（GNE）の伸びを今年四・九パーセント、来年五・三パーセント、物価上昇率をそれぞれ五・二パーセントと五・三パーセント、失業率を一〇・九パーセント、一〇・一パーセントと予測している。

◆ガソリンの含鉛率をカット カナダ政府、四年計画で

カナダ政府は、一九八七年一月一日までに、ガソリンに含まれている鉛の量を、現在のリットル当たり〇・七七グラムから〇・二九グラムに引き下げることにした。電池や、ガソリン（ノッキングを防ぐためのアンチノック剤として）、陶器、弾薬、はんだ、しんちゅうなどに使われている鉛は、猛毒性で、長期にわたって体内に吸収すると貧血、神経系や運動機能の障害、不眠、鉛毒性脳症を起こす。現在、世界中で四億一千万キログラムもの有機鉛が空中に放出されているといわれているが、その約六割はガソリンが発生源だという。

ガソリンの鉛添加量をリットル当たり〇・二九グラムに減らすことによつて、鉛化合物の空中排出量は六〇パーセントも減り、しかもその程度の削減では、自動車の操作に何ら影響はないといわれる。

◆BC北東炭、第一船が到着 二五億ドルの大事業が軌道に

ブリテイッシュ・コロンビア州北東部で進められていた日加協力による石炭開発プロジェクトが、よいよ生産段階に入り、一月末、第一船が日本鋼管の福山製鉄所に到着した。

投資総額二十五億カナダドル（約四千七百五十億円）——単独の資源開発事業としてはカナダ最大——というBC州北東炭開発プロジェクトは、連邦政府、BC州政府、二つの鉄道会社、日本の大手鉄鋼会社などの協力で推進されてきた。すでにクイントットとブルムースの二鉱山が百二十九キロの鉄道を新設し、プリンス・ルバートには新たに二億ドル余りをかけて石炭積み出し港も建設されている。



福山製鉄所で荷揚げされるカナダ炭。

クイントット鉱山からは年間五百万トンの原料炭と百三十万トンの一般炭、ブルムース鉱山からは年間百七十万トン出炭する予定で、そのすべてが日本に輸出される。

両鉱山からの出炭が軌道に乗れば、日本へのカナダ炭輸出量は年間約千七百七十万トンと、従来の

六〇パーセント増となる。

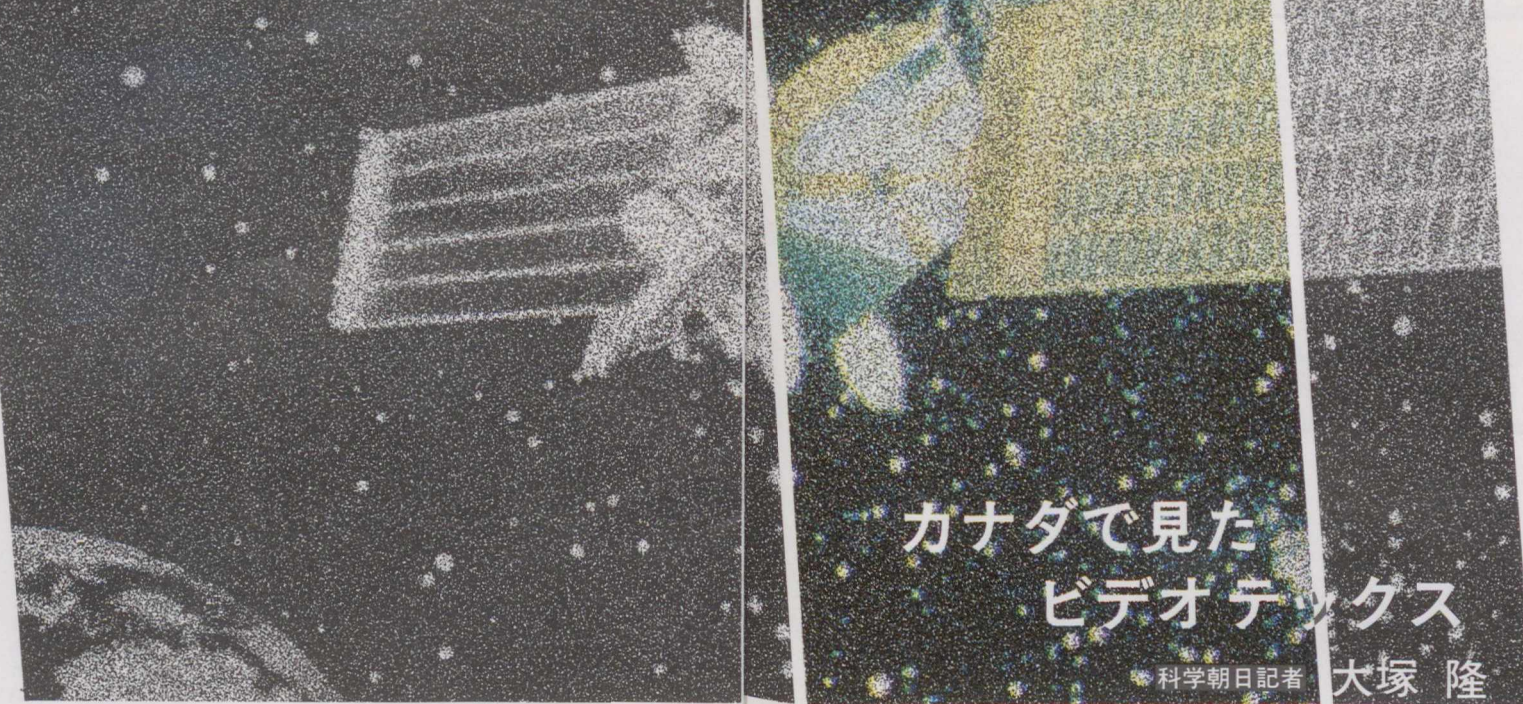
◆カナダに投資会社設立へ 自動車メーカーを中心に

日本自動車工業会の石原俊会長（日産自動車社長）は、一月に來日したカナダのラムリー通商産業大臣に対し、日本の自動車関連企業の対加投資促進や日本企業による技術援助などを目的とする「日加自動車産業協力促進会社」（仮称）の設立を提案、同大臣もこれを歓迎した。

在京各紙によると、この会社は当初の資本金四百五十万カナダドル（約七億六千万円）のうち、三百万ドルを現在カナダへ製品を輸出しているトヨタ自動車や日産自動車、本田技研工業など自工会に入っている七社が出資し、残り百万ドルは部品工業会の主要メンバーが分担する。今年夏までに設立の予定で、本社はトロントに置くという。産業協力促進会社の設立は、カナダへの工場進出要請に応えようとするもので、報道によると、当面は部品メーカーの投資促進、事前調査や情報の提供、進出するメーカーや合弁企業に対する融資や融資保証、カナダ企業への技術援助や経営ノウハウの提供などを行うことになっている。

訂正 前号「われら姉妹都市」の地図で、福山市が九州に位置していますが、広島県の間違いです。お詫びして訂正します。

特集 カナダのニューメディア



カナダで見た ビデオテックス

科学朝日記者 大塚 隆

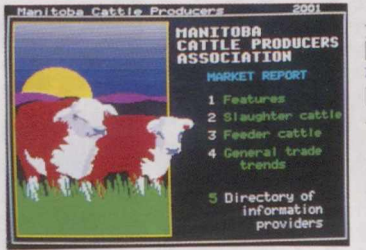
ビデオテックスという言葉が浸透し始めてきた。テレビ型のディスプレイ端末を電話線に接続し、センターのコンピュータとの間で画像を使った双方向の通信が可能な最新の情報通信システムのことである。CATV、直接衛星放送、パソコンによるコンピュータ・ネットワークなど注目を集めているニューメディアの中でも、本命のひとつとして期待されている。

このビデオテックスの最先端の姿を見ようと、昨年の秋、カナダとアメリカのいくつかの都市を取材に訪れた。ビデオテックスは七〇年代初め、ヨーロッパで生まれた技術だが、七〇年代の後半からはカナダ政府の通信研究センターが中心になって開発したテリドンという方式が、世

界のビデオテックス技術をリードしているからである。最初に訪れたウィニペグ市は、世界的な大穀物産地として有名なマニトバ州の州都。マニトバ州は面積が日本の一・七五倍もあるが、人口は百万人余りにすぎない。しかも、その半数以上はウィニペグ市と近郊に集中している。周辺部の人口は日本では想像できないほどに稀薄だ。このウィニペグ市で、三年前から、農家を対象にしたグラスルーツ(草の根)という農業情報システムが実用化されている。ビデオテックス先進国カナダでも、初の実用化システムだという。

グラスルーツのシステムの開発・運用を担当しているインフォマート社のウィニペグ事務所、農家での利用の実態を

見たいと頼むと、早速、近郊での取材を手配してくれた。ウィニペグから大陸横断ハイウェイで約一時間。黒褐色の畑と牧草地が地平線まで広がる大平原のどまん中、低い防風林に囲まれた一画に、目ざすロンフrostさんの家があった。フロストさんは、二十代半ばの独身の農業青年。案内された六畳ほどの自室には、小さな書棚と机、その上に電話とテリドンの端末、そしてベッドが置いてあるだけ。



「グラスルーツ」の農業情報。

「今では、このテリドンがぼくが一番大切なものになりました」という彼は、手慣れた様子でウィニペグ市にあるグラスルーツのセンターを呼び出してくれる。最初に画面に出てきたのは、北アメリカ全体の天気概況の画像だった。「農家に一番役立つのは気象情報です。この地域の子報だつて見られるんですよ」手元のキーパッドを操作するだけで、画面はこの地域の午後六時の予報に変わった。天気だけでなく、気温、風向、風速が細かく表示される。日本のテレビで見ると天気予報よりもはるかに詳しい。情報は至れり尽くせりで、世界の穀物相場に重大な影響を与えるもうひとつの穀物大生産地、ソ連のウクライナ地方の前日の気象状況まで調べることができる。

「農家に一番役立つのは気象情報です。この地域の子報だつて見られるんですよ」手元のキーパッドを操作するだけで、画面はこの地域の午後六時の予報に変わった。天気だけでなく、気温、風向、風速が細かく表示される。日本のテレビで見ると天気予報よりもはるかに詳しい。情報は至れり尽くせりで、世界の穀物相場に重大な影響を与えるもうひとつの穀物大生産地、ソ連のウクライナ地方の前日の気象状況まで調べることができる。

こうした実益が手伝ってか、グラスルーツの加入者は次第に増加している。その八割まではマニトバ州内の農家だが、二千キロ近く離れたアルバータ州の農家や、国境を越えたアメリカ中西部の農家も利用者になっている、という。

「農家に一番役立つのは気象情報です。この地域の子報だつて見られるんですよ」手元のキーパッドを操作するだけで、画面はこの地域の午後六時の予報に変わった。天気だけでなく、気温、風向、風速が細かく表示される。日本のテレビで見ると天気予報よりもはるかに詳しい。情報は至れり尽くせりで、世界の穀物相場に重大な影響を与えるもうひとつの穀物大生産地、ソ連のウクライナ地方の前日の気象状況まで調べることができる。

「でも、グラスルーツにはラジオやテレビにはない良さがある。この地域の冬」と呼ばれる高校生向けの職業ガイダンスサービ、大型ショッピングセンター、イートン・センターの店内情報案内サービ「ビデオプレス」などがそうだ。連邦政府通信省の資料によると、実験中のもも含め、国内だけで全部で三十近いビデオテックス・プロジェクトが進行中。そうした先進的なシステムの大部分は、インフォマート社のようなハイテク企業を中心になって開発を進めている。テリドンはもちろん、連邦政府が中心になって推進しているナショナル・プロジェクトだが、それを支える若いハイテク企業が、いくつも育ってきているのは注目値する。



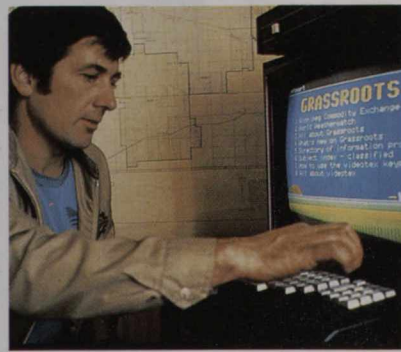
トロントのテレガイド・システム(オンタリオ・サイエンス・センターで、筆者撮影)

移動通信衛星

カナダと米国は、両国の人口過疎地や辺境地域での無線通信や自動車電話などに役立つため、共同で移動衛星を打ち上げる計画に取り進むことになった。

移動衛星(MSAT)は、カナダで七二年から検討されていたもので、構想で

ビデオテックス



キーボードをたたいて必要な情報を呼び出すグラスルーツ。

カナダが開発したテリドン・システムは、すでにいろいろなサービスに用いられている。そのいくつかをあげてみよう。

教育——オンタリオ州の州営教育放送局(TVオンタリオ)では、学校や図書館、博物館などと協力して、ビデオ教材のほか、進路指導システムを開発して、州内の学校で役立てている。またアルバータ州の電話公社では、テリドン・システムを通信教育に利用し、ニュー・ブランズウィック大学では学生が学科を選んだり、

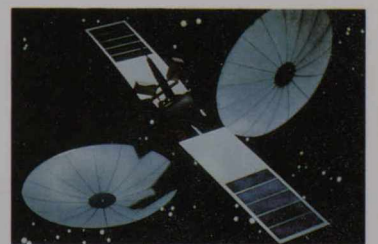
は、赤道上空三万五千キロの地点に衛星を静止させ、UHFやSHFの極超短波を使って地上に通信サービスを提供する。装置と第一世代衛星のテストは一九八五年に開始され、八八年には本格的な打ち上げとなる予定。

MSATの最大の特徴は、比較的高価で場所をとる地上局(パラボラ・アンテナ)を必要とする従来型の通信衛星と異なり、

講義や催し物の予定を知るので使っている。

ニュース、天気予報——マニトバ州のグラスルーツや、電電公社テレグロブ・カナダが運営する国際ビデオテックス・サービス、ノバテックスは、カナダの通信社CPが流すすべてのニュースを、議会ニュース、国際ニュース、スポーツ・ニュース、天気予報などに自動的に整理して、利用者に提供する。

ビジネス——グラスルーツでは、ウイニペグ商品市場のコンピュータと直結して、刻々変わる値段や先物の商況を知らせ、トロントのマーケット・ファックス・サービスはトロントその他の株式市場の動きを伝える。またモントリオール銀行は、昨年十月、グラスルーツの加入



88年に打ち上げる予定の移動衛星。

タクシーや飛行機の操縦室で使われているような送受信機で双方向に通信できること。MSATが実現すれば、移動無線

者千四百戸を対象に、ホームバンキングを開始した。

広告、テレショッピング——ベル・ビスタ・データ・ベースには、ドミニオン・ストア・チェーンの一週間ごとの特売食料品に関する情報や主な小売り業者のコマーシャルが入っており、またデータベースのイートンではテリドンで「店頭商品紹介」をするテレショッピングを行なっている。

消費者サービス——トロントのテレガイドは、ホテルなどに設置されたテリドン端末を使って、好みのレストランを探したり、博物館の展示や開館時間を調べて調べられるようになっていた。市内のテレガイド端末は、現在、およそ五百台にのぼる。

機同士または移動無線機と基地の交信、自動車にとりつけた移動電話同士の通話や移動電話機と家庭や職場の電話との通話、画像によるデータサービス、火災や事故などの緊急連絡が可能となり、広大な農業地帯や海上、資源探査・開発基地、土木・建築現場、輸送トラック、治安や消防・救急活動などの通信が飛躍的に便利になる。

TV会議

カナダの国際電信電話公社テレグロブ・カナダは、すでに西ドイツと世界で初めての国際回線データ伝送サービスを発足させ、(本紙第47号)、昨年五月には米加間で通信衛星を利用した電子郵便を開始したが、今度は英国との間で通信衛星を使ったテレビ会議サービスを始める計画を進めている。

このサービスは、大西洋上の軌道を回る商業用通信衛星インテルサットVIAを利用してトロントとロンドンの間で実施されるもので、映像、音声のほか、高速ファクシミリやビデオ・ディスプレイを併用して会議中に文書や写真なども送り合えるという。

テレグロブによると、利用者は両市の専用会議室などを使って会議を開くが、旅費や宿泊費が節約されるため、大西洋を往復して開く会議の半分以下の費用で済む。トロントに続いて、モントリオールでも同じサービスを開始する予定。



CATV

カナダのCATV普及率は世界一。全国に五百二十六のCATV会社があり、利用者は四百万にのぼる。利用者の三〇パーセントは三十チャンネル、七〇パーセントは十二チャンネルのテレビ番組を視聴することができる。

ケーブル線は全長七万五千キロもあり、特にウイニペグと四つの農村を結ぶ Manitoba 州電話公社の同軸ケーブルは世界一長い。またマニトバ州の二大都市、ウイニペグとブランドンを結ぶ二百三十四キロのケーブル網には、高度な双方向通信を可能にするカナダ製の増幅器が用いられている。

テリドンを使った双方向CATVも実用化へ向かっており、CATVはいま新しい時代を迎えようとしている。

放送衛星(DBS)

家庭やホテル、公共施設などに設置したパラボラ・アンテナに向けて、直接テレビ電波を送信する直接放送通信衛星(DBS)。カナダでは、すでに一九七六年、国内通信衛星ヘルメスを使った送受信実験に成功し、一九七九年九月には、TVオンタリオが通信衛星アニックBを使って、州北西部向けに一週間九十四時間の衛星放送を開始している。同年十二月には、CBCとブリティッシュ・コロンビア・テレビも、一日二十四時間の衛星放送を始め、その後、衛星放送のチャンネルは三つに増えた。

CBCの実験は八二年九月に打ち切られたが、あとの二チャンネルはアニックBから、八三年六月に米国のスペースシャトルで打ち上げられたアニックC3に引き

つがれた。
アニックC3は、直接放送の能力をもった世界最初の商業衛星。いわゆるDBSそのものではないが、受信アンテナが

放送衛星の受信アンテナ。



直径一・二メートルあり、チャンネル当り一番組の送信であれば、直接放送がじゆうぶん可能。カナダは今後引き続きアニックC衛星を打ち上げる予定になって、

レーダー衛星

カナダ北極では石油や天然ガスの探査・開発が進んでいるが、物資を補給する

船や海上に浮かぶ開発基地にとってつねに気になるのが、氷山や流氷の動き。その対策として、カナダでは一九九〇年までにレーダー衛星を打ち上げる計画を進めている。

カナダ政府が開発に取り組んでいるレーダー衛星は、側方監視レーダーを積載して雲や闇の中をつきぬけて海上の氷の状況を探り、その細かいデータを通航中の船舶や地上局に送って、輸送船や開発基地の安全を図ろうというもの。衛星は、気象観測や作物の出来具合、海上の油汚染などを調べるのにも利用される。

またカルガリーのインテラ環境コンサルタント社は、このほど海水・地勢査察レーダーを開発したが、これは小型飛行機にも積める高感度のレーダー。機上で即座に、しかも詳細な写真が得られ、それをただちに地上に電送できるため、石油開発基地などの安全性が大幅に改善されるという。

オタワのカナディアン・アストロノティクス社も、どんな天候でも昼夜氷の状況を観察できる航空機積載レーダーを開発、カナダ政府環境省に納入することになっている。

セル電話

おり、専用の放送衛星を打ち上げるまで、アニックCを使って衛星放送ができる。

パソコンなどと並ぶ新世代の通信手段といわれるセル電話が、カナダでいよいよ全国的に導入されることになった。

セル電話とは、都市を幅一〜十二キロの周波数区域(細胞セル)に細分化し、無線電話をとりつけた車が区域から区域へ移動するにつれて、コンピューター網が通話の周波数をそれぞれの地域に合わせて切り替える仕組みの電話。パトロー

ルカーや消防車、タクシー、輸送トラックなどが使用している従来の移動電話が、構内電話と同じく特定の基地としか通話できないのに対して、セル電話はセル電話同士の通話が広い範囲で可能なほか、通常電話とも接続できる。国際通話はもちろん、将来は移動通信衛星によって、遠隔地でも利用できるといふ。

カナダでは昨年十二月、連邦政府がカナダ全土のセル電話網経営をモントリオールのキャンテル・セルラー・ラジオ・グループに認可したことにより、一九八五年には、カナダの二十三の都市で本格的なセル電話(八百〜九百メガヘルツ)通話サービスが開始されることになる。



移動電話。

新しい文字図形表現の標準

(株)生活構造研究所 鈴木優一

カナダのテリドンが、最近急速に注目を浴びるようになってきた。数年前まではほとんど知られていなかったが、その高い図形表現力、通信の容易さ、パフォーマンスの良さなどによって、ここ一年で日本でも市民権をもつようになってきた。

テリドンは、カナダの通信省のもとで、一九七八年からビデオテキストの最新方式(アルファ・ジオメトリック方式)を取り入れてスタートした。当時はこの方式を実現するのに端末がコスト高になるといわれていたが、最近のマイクロエレクトロニクスの進歩と低価格化でコストは問題でなくなった。

テリドンは日進月歩のエレクトロニクスの世界で、個々のハードウェアに依存しない自立した規約として構成されたところに、その先進性がある。従来のシステムの多くは、ハードウェアに依存しすぎていたために、それがいかに良いものであっても、急速なハードウェアの進歩に対応できなくなってしまう。

情報の蓄積や伝達を考えるとき、一過性のシステムに多大な労力を費してこれを託することはあまりにもばからしい。

しかし今までのコンピューター・システムや情報処理の世界は、このことの繰り返しであった。営々として作ってきたシステムが、ハードの進化で捨て去られてしまってきた。ソフトウェアはハードから独立しなければならぬ。テリドンは、この思想のもとに考案された情報伝達のシステムである。この方式によって作成される情報は、将来にわたって互換性が保たれる。

文字については、情報交換のコードとして英数字と若干の記号に関する標準が、アメリカでASCIIコードとして定められ、これによって情報交換がハードウェアと独立してできるようになった。このコード体系が全世界の標準として採用されたからこそ、様々なデータベースがハードウェアから独立して蓄積できるようになってきたのである。

テリドンは人間の情報伝達のもうひとつの重要な要素である視覚情報、つまり図形についても、その表現方法に一定の規約を設け、コード化した情報交換・通信の標準として提案されたものである。昨年アメリカがこの方式を受け入れ、CSA(カナダ標準局)とANSI(アメリカ

標準局)の共同でNAPLPS(北米プレゼンテーション規約)としてこれを採用した。この意義は非常に大きい。マイクロコンピューターが普及した現在、この規約を解釈し表示するソフトウェアによって、ビジュアルな情報の交換・通信がネットワークによって全世界的な広がりをもつことが可能となったからである。テリドンは、ホームショッピングやホームバンキングの媒体として多く語られてきた。これらは確かにテリドンの応用の分野ではあるが、コンピューターの扱う情報交換のコードの拡大を見ると、様々な情報処理の分野と結合して、無限の応用が拓けてくるのではなからうか。



PDIコマンドで簡単に図形が描ける。

テリドンのコード体系は簡潔にまとめられている。多様な表現のため、英文字、補助文字、PDI(図形描画指令)、モザイク、マクロ(同一パターンの登録)、DRCS(外字登録)が用意され、これ

らの選択により文字や図形の表現を行う。すべてのコードはバイト単位にまとめられ、従来の文字コードの拡張となっている。テリドンは日本語はサポートしていないが、同じ考え方で漢字・カナを容易に付加することができる。

図形表現はPDIコマンドで実行される。5つの基本要素(点、線、長方形、円または円弧、多角形)で図形が表現される。各図形は色、線種、ぬりつぶしパターン、点滅などで制御され、多様な表現が可能となる。図形の位置は規格化された単位スクリーンで定義され、物理的なハード依存性を排除している。

文字表示も豊かな表現を可能にするコマンドがあり、横書き、縦書き、字の大きさ、回転など多様にコントロールできる。

テリドンの端末はこれらのコードを通信回線(電話など)から受け、各コマンドを解釈し、意味づけしてグラフィック画面に表示する。この端末の機能は、パーソナルコンピューター上のソフトウェアで実現できる。日本で百万台とも言われるパーソナルコンピューターは、潜在的にテリドンの端末の可能性をもち、その意味でテリドンは日本で広範に普及できるようになろう。

今年にはニューメディア元年といわれ、新しいメディアの多様な展開が始まろうとしている。カナダのテリドンも、日本での利用が開始され、色々な応用が試されることとなろう。日本やアメリカ、カナダとのテリドンによる通信も現実のものとなってきた。

日本でも活躍カナダのニューメディア

横浜こども科学館に テリドン情報網

5月5日にオープンする横浜こども科学館（横浜市磯子区洋光台）に、テリドンを使った双方向画像通信システムが一目見えます。

科学館には、子供たちに頭と体で科学に親しんでもらおうと、「宇宙船教室」やプラネタリウム「宇宙劇場」、「宇宙工房」、「宇宙スポーツ室」などが設けられるが、目玉のひとつが全館に同軸ケーブルをはりめぐらせて作った、いわゆるローカルエリアネットワーク(LAN)。約20台のテリドン端末が配置され、子供たちは端末を利用してコンピューターからさまざまな情報（文字およびカラー画像）を呼び出したり、逆にコンピューターに情報を入力できるようになるという。

科学館では、これを館内案内に使うほか、宇宙や科学技術、あるいは横浜市について知る対話形式の情報システムとして活用したい考え。現在、横浜市に生息している動植物を子供たちが描いて入力できる「観察図鑑」、科学館の学芸員と市民の協力で作る「電子新聞」、宇宙や科学に関する「宇宙子供大百科事典」が予定さ



テリドンで描いた横浜こども科学館。©生活構造研究所

れている。将来は、同様のシステムをもつ学校や博物館、さらに市外、あるいはカナダなど国外の諸機関とも接続して、情報の輪を広げているという構想もある。

テリドンの商用化実験 三井グループが都内で

三井グループの主要企業4社が、テリドンを使った店頭情報サービスの商用化実験を4月にも東京都内で始める予定、と日本経済新聞（2月12日）が伝えている。

同紙によると、この実験に参加するのは三井銀行、三井不動産、三越、それにイトーヨーカ堂。テリドンの端末を20の店舗に配置して、三

井グループの共同広告を流すほか、三越やイトーヨーカ堂では催事案内や売り場・商品情報、三井不動産では不動産仲介情報、三井銀行では金融情報などを提供する計画だという。

昨年4月、カナダのテリドン関連3社と代理店契約を交わして以来、日本向けテリドン・システム用ソフトの開発やユーザー開拓を行ってきた三井物産では、トロントのショッピング街イートン・センターに採用しているビデオプレス・システム（お客がテリドン端末で商品情報を呼び出せる）の日本導入、テリドン用アプリケーション・ソフトウェアの国産パソコンへの移植（パソコンがテリドン端末に転用できる）、テリドン用日本語ソフトの開発、テリドン端末へのビデオディスクの接続（デコーダー端末の開発により、家庭用あるいは店頭テレビ受像機がそのままテリドン画像表示装置として利用できる。今年4月、NAVICの名称で販売の予定）なども進めている。

ニチメンが輸入販売 テリドンをアジア各地で

ニチメンは、カナダ第2の通信機器メーカーBC・テレホン・グループ（本部バンクーバー）が開発したテリドン・ビデオテックス・システムを、日本、中国、韓国、インドネシアなどのアジア各地、およびオーストラリアなどオセアニア地域で販売することになった。

ニチメンでは4月はじめに正式調印を済ませるとともに、同システムの販売会社を設立する予定。

野村証券、5都市の店頭で実験 日本語のテリドン・サービス

野村証券では、昨年11月から、全国主要5都市の営業店舗で、テリドンを使った情報提供サービス実験を実施している。

「野村のビルボード（電子掲示板）サービス」と呼ばれるこの実験は、野村証券が三井物産と共同で行っているもので、三井情報開発（株）のホストコンピューターをデータベースとして、野村証券の本点と営業店舗をオンラインで結び、それぞれの店舗の店頭で設置されたカラーテレビでさまざまな情報を文字と画像で提供する。

最初は、野村証券の金融商品の案内や野村グループの紹介などをアニメーション画像にして

映し出すだけだったが、12月19日からは金利や為替の見直しなどを伝える野村ニュース、海外株式ニュース、読売新聞社提供の一般ニュース



野村証券名古屋駅前支店に設置されたビデオテックス・システム。（読売新聞提供）

やスポーツ・ニュース、タウン情報などを追加し、しかもお客が自分で検索できるようになった。

実験は4月中旬まで続けられる。

テリドンの日本語処理 生活構造研究所が実現

生活構造研究所（東京都新宿区）は、テリドン・システムを日本語処理できる「マイクロ・ビデオテックス」を開発した。同社によると、これで「双方向画像通信システムは、日本においても米国、カナダと共通の規格になった」

マイクロ・ビデオテックスは、商品デザインやパターンカラーの開発、各種情報の検索、テレショッピングや各種プロモーション、予約サービスやレジャーガイド、博物館などの館内案内、行政サービスなどのほか、端末同士の通信に利用できるという。横浜こども科学館のテリドン・プログラムは、いずれも同社が開発した。

カナダ製デジタルPBX 日本でも約百台が稼働

企業、公共機関、大学などで電話、コンピューター、ファクシミリ、テレックスなど、膨大な数のOA機器を有機的につなぐPBX（構内交換機）。PBXはLAN（企業内情報通信網）やINS（高度情報通信システム）の中核をなすものとして注目を浴びているが、ノーザン・テレコム社のSL-1シリーズ、マイテル社のSXシリーズ、ガンダルフ社のPACXシリーズ、ITT・カナダのシステム3100などカナダのPBXが、各社の在日会社や代理店を通じて、日本でも販売され、すでに九州大学や広島大学、公立の研究所、大手企業などで、合計100台近くが稼働している。



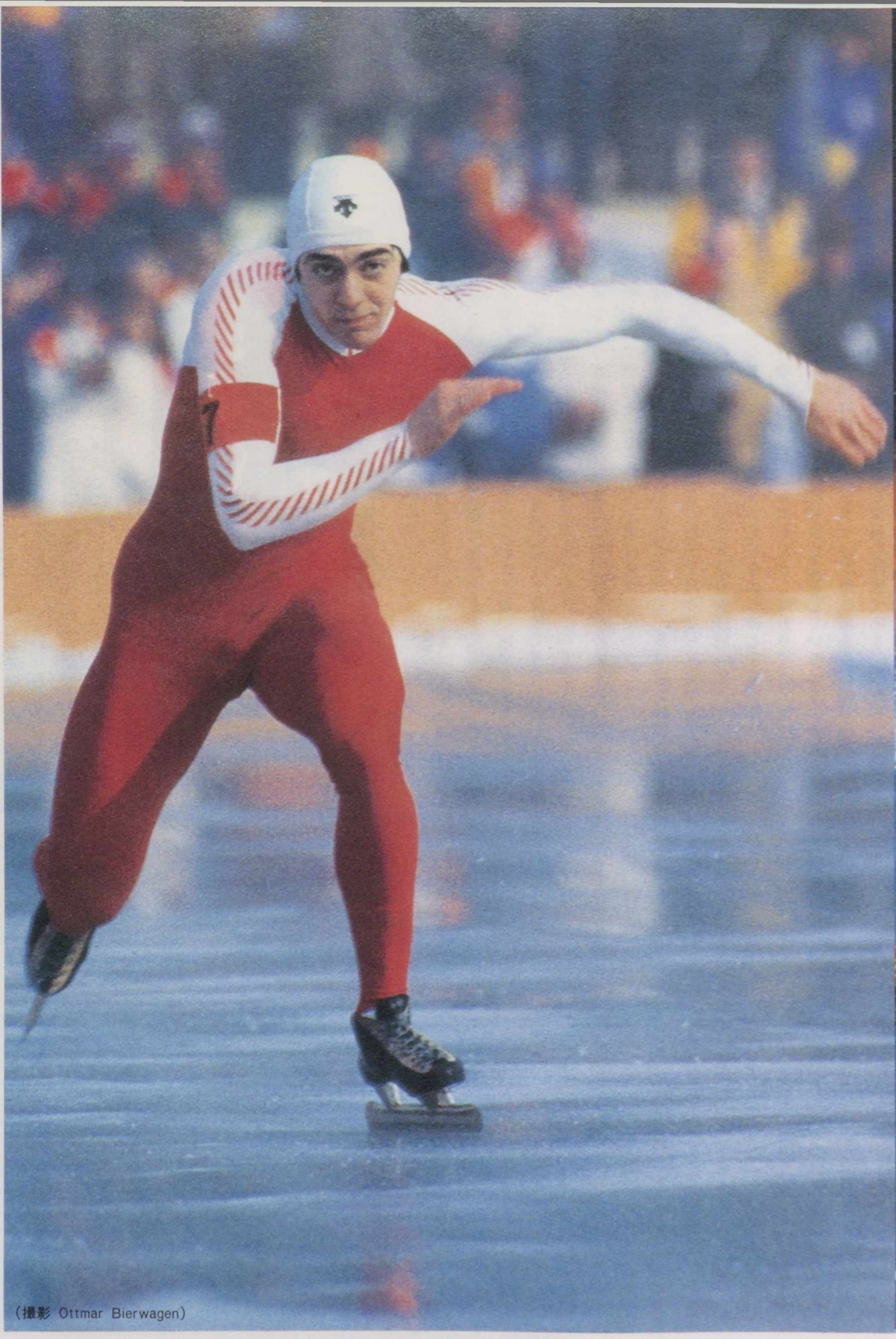
カナダからサーカスがやってきました

カナダからサーカスがやってきました——といっても、曲芸をやるサーカスではない。こちらのほうは、子供たちがさまざまに科学器材を見、それに触れ、あるいは操作してみることによって、驚き、また感嘆しながら科学の原理を学ぶという趣向の、サイエンス・サーカスである。例えば、金属球に手を触れると、髪の毛が

ハリネズミのように逆立ってしまう(上の写真)。これはモーターでゴムベルトを回転させること(摩擦起電現象)によって発生した、五十万ボルトの静電気のいたずら。子供達は、びっくりしながら静電気について学ぶわけである。(電流がゼロに近いので、人体に害はない。)

そのほか、流体が通る断面積とその速度の関係を教える風力自転車、両方の目の角度の違いを確認する立体メガネ、人体の構造を立体的に理解しようという模型など、約七十点が展示される。

このサイエンス・サーカスは、画期的な考え方の科学博物館として世界的に知られるオントリオ・サイエンス・センターの展示物の中から、最も人気の高いものを選んで巡回用にまとめた、いわば動くサイエンス・センター。日本では株式会社シスコが一セットを購入して、各地



(撮影 Ottmar Bierwagen)

ブシエがス・スピード王に サラエボ冬期オリンピック

ユーゴスラビアのサラエボで開催された第十四回冬期オリンピック大会で、モントリオール出身のゲータン・ブシエ選手(写真)が千メートルと千五百メートル・スピードで金メダル、五百メートルで銅メダル、と大活躍した。

ブシエ(二十五歳)は、七六年のインスブルック大会、八〇年のレークプラシッド大会など、数々の国際試合で上位を占めてきたカナダ期待の選手。今回の記録は千メートル1分15秒80、千五百メートルが1分58秒36だった。

三つのメダルを獲得したブシエを、新聞は「スピード王」と呼んだ。冬期オリンピックでのカナダの金メダルは八年ぶり。サラエボでは、そのほか、ブライアン・オーザーがフィギュア男子シングルで銅メダルをもらった。

次回(八八年)の冬期オリンピックは、カナダのカルガリー(アルバータ州)で開かれる。地元カナダの選手がどれだけ活躍するか——。

カサタの医療行政を高く評価する

日経メディカル編集委員会

厚生省をめぐり、医療行政の改革が求められている。この改革は、医療の質を向上させること、医療費の削減、医療従事者の確保などが求められる。カサタの医療行政は、この改革をリードしている。カサタは、医療の質を向上させるために、医療従事者の確保に力を入れている。また、医療費の削減のために、医療の効率化を進めている。カサタの医療行政は、高く評価されている。

聞かされたように、カサタの医療行政は、高く評価されている。カサタは、医療の質を向上させるために、医療従事者の確保に力を入れている。また、医療費の削減のために、医療の効率化を進めている。カサタの医療行政は、高く評価されている。

カサタの医療行政は、高く評価されている。カサタは、医療の質を向上させるために、医療従事者の確保に力を入れている。また、医療費の削減のために、医療の効率化を進めている。カサタの医療行政は、高く評価されている。

カサタの医療行政は、高く評価されている。カサタは、医療の質を向上させるために、医療従事者の確保に力を入れている。また、医療費の削減のために、医療の効率化を進めている。カサタの医療行政は、高く評価されている。

カサタの医療行政は、高く評価されている。カサタは、医療の質を向上させるために、医療従事者の確保に力を入れている。また、医療費の削減のために、医療の効率化を進めている。カサタの医療行政は、高く評価されている。

と同じトロントの郊外に位置している。何よりも感心したのは、患者の食事だ。

いくつか用意されたメニューの中から好みのものを選べるというのがひとつ。さらには朝食が八時、昼食が十二時というのは日本と同じだが、夕食は六時だ。しかも、必ず温かい食べ物を出している。

日本の病院では調理場従業員の勤務態勢が最優先に考えられているため、冷たい料理を食べさせられることが多く、それが患者の不満のひとつになっているのはご承知の通りだ。しかし、この病院では院長のJ・C・ヘップバーン氏が冗談半分に言うように、「患者さんから食事が熱過ぎるといふ文句がしょつ中出る」

こうしたサービステ態勢が可能になったのは、「調理・冷蔵・再加熱システム」という特別の方式を同病院でとり入れているからだ。これはいったん調理した食事を摂氏四度ぐらいで保存しておき、配膳の三十分前に特殊な方法で再加熱して配るといふ仕組みである。調理は五分分まとめて行うため、週末には調理場の職員がだれもいなくても患者に食事が出せるといふことだ。いわば、従業員のカットで経費削減もできる上に患者サービスマも向上するという「一挙両得」を実現したもので、ヘップバーン氏もご自慢の様子だった。

患者の快適さを最優先

病院ばかりでなく、慢性病患者のためのナーシング・ホームでもそうした患者への配慮が至るところに見られた。バンク

パー市内にあるロイヤル・アーチ・メーソニック・ホームはその典型的なケースである。

一昨年の四月にオープンしたばかりで、真新しく近代的な建物が周囲を圧するメーソニック・ホームは、百三十人の患者の大半が八十歳以上という老人向けのナーシング・ホームだ。老人ボケの患者も多く、日本でいえばいわゆる「老人病院」といった施設だが、そんな暗いイメージは微塵もない。

代表者のG・S・ランザ氏によると、「できるだけ患者のプライバシーを尊重するように努力しており、服装も自由で、食事のメニューも選べるよう工夫している」とのことだ。患者の評判も上々で、常に二百人以上の人がベッドの空きを待っている状態だといふ。

ランザ氏の案内でホームの中を見て歩いた。広い機能回復訓練室、採光が十分に配慮されている病室。サンルームや食堂、読書室も整備されている。娯楽室ではトランプに興じる患者の姿もあった。ある女性患者の個室も見せてもらったが、壁には手づくりの人形などが所狭しと並べられて、アパートの自室で生活を楽しんでいるといった風情である。

このようにカナダで訪ねた病院、ナーシング・ホームではどこでも、患者の快適な生活を最優先に考えているのが印象的だった。もちろんすべての医療機関を見ただけではないので、これがカナダの標準的な医療だと即断する勇氣はない。しかし、ともすると病気の治療にだけ目が

行きがちな日本の医療界に比べて、病人の精神状態のケアも含めた総合的な対応をしているカナダの医療のあり方に、一日の長を見る思いがしたものだ。

患者奉仕の医師養成

ただこれからの問題は、冒頭にも触れた国の財政悪化を背景とした、患者自己負担の増加である。医療の内容は優れていても、自己負担が重くなれば結果的にはお金を持っている人しかそれを享受できなくなる。例えばメーソニック・ホームの患者負担一か月約七万円は、年金でカ



ヨークセントラル病院の食事再加熱装置。(筆者撮影)

バーでできる範囲の金額だが、仮に将来その負担が増えれば、払えなくなる人が出てくることも当然予想される。公平な医療という従来のカナダの政策が実に優れたものだけに、これからは苦しい選択を強いられることになるだろう。最後にユニークな医師養成で知られる

マクマスター大学医学部を簡単に紹介しよう。オンタリオ州ハミルトンにあるこの大学では、講義スタイルの授業もなく、試験も行なわないという特色のある医師づくりをしている。医学部教授のノーマン・F・ホワイト氏によると、その狙いは「医学知識の詰め込み教育ではなく、患者に実際に対した時に自分で問題点を発見し、それを解決できるような態度を学ばせること」だといふ。

学生は十人単位の「チュートリアルグループ」という組織に分けられ、学生一人に指導教官一人がついてキメ細かな教育を行なっている。しかも自分の研究テーマや学習の方法まで、学生自身が判断して決めることが義務づけられる。教官はそれが正しい方向に進んでいるかチェックし、補助するだけだ。

また面白いのは入試の方法で、いわゆる学力テストは行なわず、一次の論文試験で四百人に絞った後、医学部教員や地域の開業医、さらには地域住民の代表などで構成する面接チームによってインタビュー試験を実施して、合格者を決めるという。ホワイト氏は、これらのユニークなシステムをとっているのは「患者に奉仕する医師をつくるためだ」と強調した。

ここでも「患者のため」という言葉が無理なく使われている点に注目しなければならぬ。カナダの医療界を貫くトーンは、結局この思想である。ともすると、医師優位の考えが色濃く残る日本の医療界への警鐘になると思う。

歴史点描

カナダ連邦の統一を達成し、今日のカナダの基礎を築いた初代首相ジョン・A・マクドナルド。カナダの歴史の中で、マクドナルドほどまさに「国父」の名に値する大事業をなしとげ、また国民から愛された政治家はいない。

マクドナルドの半生は、アメリカ合衆国の膨張政策から、いまだ脆弱なカナダを守り通すことに費された、といってもよい。当時アメリカは、南北戦争をへて国家統合を完成し、北アメリカ大陸全土を支配するという「明白な運命論」に支えられて、カナダに侵略する気配を見せていた。カナダをアメリカの「魔の手」から救い、自立できるための力をつける——これがマクドナルドの政治理念だった。

当時のカナダは、ローワー・カナダ（今日のケベック州）とアップパー・カナダ（同オンタリオ州）という二つの英国植民地が、東部カナダ（ケベック）

と西部カナダ（オンタリオ）からなる連合体に移行しようとするところであった。これら二植民地は一八四一年に連合カナダとして統一され、キングストンが首都になった。大西洋沿岸の諸植民地はその連合体には加わらなかった。こういう状況の中で、マクドナルドは英王党（保守党の前身）から立候補して、議員に当選する。二十九才であった。二年後には、三十一才の若さで税務長官としてジャーウッド・テイリ―内閣に入閣する。

ところで、一八四〇年代から五〇年代にかけては、内外とも不安定な状態が続いていた。統合カナダの中では、イギリス系の西部カナダとフランス系の東部カナダがことあるごとに衝突し、

海から海へ

初代首相の大構想

首都さえも四年ごとにトロントとケベックの間で交代するありさまであった。外にあっては、英国がそれまで保証していたカナダ産小麦に対する免税と材木に対する低率関税を撤廃し、カナダ（および他の植民地）との特別な経済的きずなを断ち切った。反面、カナダにある英領植民地と合衆国の間では、関税が大幅に撤廃され、経済交流が盛

んになってきた。

一方、カナダにとって、合衆国は、英米間で決着していなかったロッキ―山脈以西の国境線をめぐって強硬な態度に出るなど、次第に大きな脅威になつていった。

マクドナルドは、こうした状況の変化をみて、いよいよカナダ統一の必要性を確信する。そこで、彼はまず党内のイギリス系とフランス系の間をまとめ、一八五七年にマクドナルド・カルチエ内閣を作った。続いて、一八六四年、マクドナルドは東西カナダ間の争いで暗礁に乗り上げた議会で解散を命じた英国総督の意向を無視し、反カトリック、反フランス系の政敵ジョージ・ブラウンと協議してカナダにあるす

べての英国植民地を何らかの形で統一するための連立内閣を発足させる。カナダにとって大きな転機が訪れた。

その後シャーロットタウン（プリンス・エドワード島）とケベック市で開かれた連合カナダ植民地会議で、マクドナルドは精力的に、そして雄弁に米国の脅威と植民地統一の絶対的必要性を説いた。一八六五年三月七日午前四

時過ぎ、各植民地の代表たちは、ついに九十一対三十三で統一の内容を盛り込んだ「ケベック決議」を採択する。そして、一八六七年七月一日、英国議会の承認を得たケベック決議は「英領北アメリカ法」として発効、ここにオンタリオ、ケベック、ノバ・スコシア、ニュー・ブランズウィックの四州からなる「自治領カナダ」が誕生した。

新生カナダの標語として、「マリ・ウスケ・アド・マリ」（海から海へ）が選ばれた。大平原および太平洋沿岸を含む、大西洋から太平洋に至る全国土の統一と発展への願いが、この標語には込められていた。

初代首相には、もちろん、マクドナルドが選ばれた。

しかしマクドナルドには、就任早々から幾多の困難が待ち構えていた。大西洋沿岸のノバ・スコシア州では、早くも連邦脱退の動きが出ていたし、大平原ではフランス人とインディアンの混血であるメティスが独立した居住地を作り、合衆国に加わろうという気配さえ見せていた。アメリカが狙っていた北西一帯は、まだハドソン湾会社から連邦政府に移管してなかったし、ロッキ―山脈によって隔離されたプリティッシュ・コロンビアは、カナダ連邦への加入にちゅうちょしていた。

ノバ・スコシアの脱退問題は、マクドナルドが連邦加入に批判的なジョセフ・ハウを入閣させることによって解

決した。北西地方は、ハドソン湾会社から連邦政府へ譲渡され、北西準州としてカナダに併合された。

次の課題は、プリティッシュ・コロンビアを連邦に加えて、国土を「海か



ジョン・A・マクドナルド

ら海へ」を広げるとともに、大平原および太平洋沿岸の植民と産業化を推進し、国内東西間の貿易を発展させることであった。カナダを合衆国からの引力に抵抗できるように強くしなければならぬ。

マクドナルドは、一八七一年、プリティッシュ・コロンビアの連邦加入の代償として、セント・ローレンス川から太平洋沿岸までのびる横断鉄道の建設を約束した。

人口わずか三百五十万、しかも連邦結成後わずか三年目というカナダが、一億ドルもの大金をかけて、当時としては世界最長の鉄道を大平原から岩だらけのロッキー山脈を越えて建設しようというのである。時の野党党首アレクサンダー・マッケンジーが述べたように、「全くの気違い沙汰」であった。

マクドナルドには、確かに、奇行がなかったわけではない。彼の家（マク

ドナルド家は、彼が五歳のとき、スコットランドのグラスゴーから移住した）では、当時どこでもそうであったように、彼がまだ子供の頃から生のウイスキーをふるまっていた、小さい頃から酒に慣れていた。徒弟をへて二十一歳で弁護士になったときには、すでに酒におぼれていたという。最初の妻が結婚直後から病床に伏したまま十四年後に死亡、長男は生後十三か月後に事故で死亡、再婚してできた娘は知恵遅れ

——という積み重なる家庭の不幸は、政治の心労も加わって、彼を一層酒に近づけた。その彼が、酒の上で演じた奇行は数知れない。（それゆえに、国民から親しまれてもいた。）

しかし、横断鉄道に関する限り、マクドナルドは真剣だった。ところが、この計画は最初からつまづいてしまった。太平洋鉄道の建設契約を手に入れようと、こともあろうにアメリカの鉄道資本と手を組んでいたモントリオール資本家が、カナダ太平洋鉄道会社の総裁職と引き換えに、マクドナルドに保守党の選挙資金として十七万九千ドルを渡したことが、明るみにでたのである。このいわゆる「太平洋鉄道疑獄」のために、マクドナルドは失墜し、鉄道建設も夢に終わるかにみえた。

ところが、新しい自由党政権は、世界的な恐慌のせいもあって国民の不評

を買い、次の選挙ではマクドナルドが圧倒的な勝利を得て政権に復帰した。

一八七八年の選挙で保守党が掲げた選挙スローガンは、「ナショナル・ポリシー」であった。このスローガンは八年前にも、カナダは経済的独立を達成するため、国家財政政策を策定すべきだという意味で、保守党が用いたことがあった。そのときは関心を呼ばなかったこのスローガンも、高関税に保護された合衆国の業者が余った品物をカナダに安く流し、カナダの産業を苦しめていた状況にあって、急に現実性をおびてきた。

政権に返り咲いたマクドナルドは、まだ幼いカナダの産業を保護し、また国内東西間における物資の流通を図るため、ただちに関税を引き上げた。



1864年、シャーロットタウンに集まった各植民地の代表。中央からやや左に立っているのがマクドナルド。

一方の鉄道建設は、新しい会社によって再開された。そして、着工後五年たった一八八五年十一月七日、無人の大平原をつつきり、カナディアン・ロッキーの厚い岩盤を打ち砕いて敷いた線路の枕木に、最後の釘が打ち込まれた。カナダ太平洋鉄道（CPR）が、とうとう完成したのである。

カナダは、マクドナルドが言うところの「鋼鉄のきずな」で、東から西まで結ばれたわけである。

およそ六か月たった一八八六年六月二十八日、モントリオールから終着駅であるプリティッシュ・コロンビア州ポートムーディへ向けて、最初の客車が出発した。

この鉄道完成の意義は大きかった。アジアから太平洋沿岸にとどいた茶や絹が鉄道でカナダ東部へ運ばれ、汽車の乗客のために沿線の荒野にホテルや休憩所が建てられた。太平洋鉄道会社の植民計画によって、何万という開拓者が英国やヨーロッパ各国から鉄道を利用して移住してきた。やがて駅を中心に村や町が発展していった。

マクドナルドの夢は実現した。彼はその後政権の座を守り、一八九一年の総選挙でも指揮をとる。選挙は、まともマクドナルドの勝利に終わった。しかし、その二か月後の一八九一年六月六日、選挙戦で疲れきった彼は、とうとう七十六歳の華々しい生涯を閉じた。（Y）

不世出のホッケー選手

ウェイン・グレッツキー

カナダでアイスホッケーといえば、日本における相撲と高校野球を合わせたほどの人気がある。ホッケー・シーズン、特にナショナル・ホッケー・リーグが始まると、人々は仕事も手につかず、話題といえはもっぱらホッケーのことばかり——という仕儀にあいなる。



The Citizen 提供

い。よちよち歩きするときから、そのころから人気のあったテレビ番組「ホッケー・ナイト・イン・カナダ」を見て、祖母の買ってくれたおもちゃのステッキを手に、彼女をゴールキーパーにして居間で選手のまねをしていた。二歳になると、祖母の家の裏庭で、初めてスケートをはいている。

五歳のとき、ふた回りも年上の子供たちに交じってゲームに参加、初めて得点。それ以来、「グレッツキーあるところ」に勝利あり」といわれるほどで、毎年、勝利選手に選ばれ、相手チームを歯ざしりさせた。

世界ジュニア選手権でも大活躍、何度も最優秀選手賞を獲得している。

グレッツキーが本領を發揮するのは、一九七八年夏、十七歳の若さでワールド・ホッケー協会(WHA)のインディ

アナポリス・レーサーズと契約を交わし、プロに転向してからのことである。契約期間七年、契約金が推定百七十五万ドルという破格の条件であった。特に、その翌シーズン、エドモントン・オイラーズに移籍されてからのグレッツキーの活躍は目覚ましく、それまで毎回最下位だったチームが最前線に躍り出し、その試合は、連日グレッツキーの

妙技を一目でも見ようというファンで埋まった。

七九年一月二十六日、オイラーズは十八歳の誕生日を迎えたグレッツキーと二十一年間という超長期契約を結んだ。契約金は五百万ドルを下らないといわれた。そのシーズン、グレッツキーは百十点を稼いで、WHAの年間ルーキー賞を獲得、チームも初めてWHAの最上位に進出した。

その年、オイラーズはナショナル・ホッケー・リーグ(NHL)に加盟した。ビッグ・リーグ入りしたわけである。そしてグレッツキーに対するエドモントン市民、いやカナダのすべてのホッケー・ファンの期待もさらに高まった。グレッツキーは、期待を裏切らなかつた。NHL新人シーズン最高得点、シーズン最高アシスト(補助プレー)得点、シーズン最高得点、ゲーム当りシーズン最高平均得点および最高平均アシスト得点と、次々記録を書き換えていったのである。例えば、彼が達成した2・05というゲーム当り最高平均得点は、八十回の試合を通じて毎回二点獲得することで、それまで不可能とされてきた。どれほどの偉業か、想像できらるだろう。NHLの最優秀選手にも

たて続けに選ばれ、カナダの年間最優秀スポーツマン(一九八〇、八二年)の栄誉にも輝いた。記録の更新はその後も続いている。

背番号99。グレッツキーは子供たちにとっても、またホッケー好きの大人たちにとっても、現代のヒーローだ。

●カナダのニューメディアについては、特集やトピックスで何度かご紹介しましたが、今回は主に、ニューメディアがカナダで具体的にどう利用されているか、あるいはどういう利用法が考えられているか、という観点から特集を組んでみました。

●テリドンをはじめ、通信衛星などの活用などを見ますと、カナダはすでにニューメディア時代に突入した、という感じがしますが、いかがでしょうか。

●カナダの医療を取材してこられた日経メディカルの蓮池さんに、見聞記を寄せていただきました。カナダの医療も種々の問題を抱えているようですが、患者中心の考え方は変えて欲しくないものです。

●次号から、カナダ在住のいろいろな方々に「カナダ便り」を書いていただくことになりました。お楽しみに。

●本紙のレイアウトを変えてみました。読みやすい、親しみやすい、広報紙にしたい——というのがねらいですが、気に入っていただけたでしょうか。(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三-三八

カナダ大使館広報部

カナダ人物記14

その話題の頂点にいるのが、エドモントン・オイラーズのセンター、グレッツキー選手だ。何しろ、十一歳のとき八十五試合で三百七十八点をあげ、十七歳でプロに転じて以来、数々の大記録を打ちたて、不可能を可能にしてきた男なのだ。わずか二十三歳ながら、すでに全国的なスーパーヒーロー。

それがウェイン・グレッツキーである。オンタリオ州で生まれたグレッツキーは、ホッケーと共に育ったといつてよ